

竜王南小学校 学校関係者評価書（後期）

平成22年2月15日（月）

竜王南小学校学校関係者評価委員会作成

第2回 学校関係者評価委員会

実施日：平成22年2月12日（金）午後5時～6時30分

会場：竜王南小学校 会議室

参加者：学校関係者評価委員及び学校職員

* 学校評議員

中島三郎 長坂光彦 小林みち子 江口早百合

* P T A 役員（正副会長）

会長：大木弘一 副会長：長谷川正子 奥山博美 北川原美智（欠席）

* 学校職員

校長：千野文雄 教頭：石丸洋一 教務主任：秋山均 生徒指導主任：西川孝雄

学校側から提案された内容

- (1) 本年度の教育活動等にかかわる保護者意識と児童の学校生活での様子について（全体的な特徴）
- (2) 学校職員の自己評価結果について（達成状況と改善策）
 - 学校経営と運営について
 - 学習指導について
 - 生徒指導について
 - 家庭及び地域との連携について
 - 学校の特色について
- (3) 児童及び保護者のアンケート結果について（全体的な特徴）

協議された主な内容

- (1) 学校経営及び運営について
 - ・学校評価制度が、本校の教育活動の合い言葉でもある「やる気・こん気・げん気」の児童への教育活動の全体にかかわって、よりよいものとして機能していることが見受けられる。
 - ・現在の教育現場は、生徒指導面や家庭教育での相談などあまりにも日々の出来事が多忙であるため、教職員が余裕を失っていることが伺える。
- (2) 学習指導について
 - ・宿題や家庭学習に対する指導では、児童に学習することへのよりよい意識付けが大切ではないだろうか。
- (3) 生徒指導について
 - ・児童の指導上等での諸問題は、今も以前も変わらず起こっている。基本的な生活習慣及び規範意識を育む指導体制を絶えず見直すなど、きめ細かな指導が行える組織づくりを進めることが大切である。
 - ・児童と先生が、中休みなどに芝生の校庭で一緒に遊んでいる光景をよく見かけ、一緒に遊ぶということがとても大事である。
 - ・登下校時以外でも多くの児童から挨拶を受けるようになった。
- (4) 保護者及び地域住民との連携について
 - ・児童の登下校時には、児童への「安全と安心」にかかわる活動をとおして、日ごろから「あいさつ運動」への協力をいただいている。
- (5) その他
 - ・児童の生活のサイクルで必要なことは、「早寝・早起き・朝ごはん」という時間が大切である。

全体評価

学校側では、学校関係者評価委員会に対し竜王南小学校の日ごろの教育活動等の取組に対して、話し合いだけでなく、子ども達の活動の様子を見させていただく機会を多く設定してもらった。については、日ごろの子ども達の活動の様子を参観することで学校の様子が分かり、本委員会での協議等をおし、よりよい学校改善が適切に行われることを目的として、この会議の必要性を委員として再認識した。なお、委員が一堂を会して話し合いを行ったのは年2回であったが、質疑応答などを交えながら、学校と学校関係者評価委員が一つになり、よりよい竜王南小学校の教育活動等の創造に向けた有意義な話し合いが行えた。

については、今回の報告を受け、前期との比較やその後の改善等について学校の姿を的確に捉え、学校が次年度に向けて進む方向性やその取組への評価を正当に行うことに努めた。

そこで、から の全項目においてA又はBの肯定的な評価となっていることは、日ごろの教育活動とその他の学校運営等の全体的な面について、概ね良好であると感じる。また、職員一人ひとりが、それぞれの持ち味によって、教育目標の実現に向けて取り組んでいるのではないかと思う。しかし、項目

の（学習指導）・（生徒指導）・（地域との連携）・（学校の特徴）については、詳細に評価内容を判断すると、Cの少数意見を受け止めることも必要である。

次に、児童アンケートの全校集計結果からは、「朝ごはんを食べて登校していますか。」「もしあなたが悪いこと（まちがった行動）をしたら、先生から注意されると思いますか。」「クラス（学年）に仲良く遊ぶ友達がいいますか。」「学校からのたよりや通知（連絡など）を家の人に渡していますか。」「先生はわかりやすく勉強を教えてくださいませんか。」「活動（行事）に頑張りましたか。」「委員会活動にしっかり取り組んでいますか。」の7項目について、Aの比率が高い。また、「先生から学校のきまりや約束ごとを守るように言われていますか。」「宿題を忘れずにしていますか。」「学校が楽しいですか。」についてもBより20ポイント以上Aの比率が上回っている。しかし、確かな学力にかかわる指導面では、中学年や高学年になるにつれ、学習面での向上心や生活面での約束ごと、また日常的な挨拶というようなことについて、概ね良好とは言えるが向上心での課題があると感じる。

保護者アンケートの結果からは、「朝ご飯を食べて登校していますか。」という問いに、「いつも食べている(85.7%)」、あるいは「だいたい食べている(10.5%)」と回答しており、高水準である。このことは、各家庭において「早寝・早起き・朝ごはん」への意識の高さが伺える。また、「宿題（課題）を忘れずにしていますか。」「授業参観等で教育活動の様子を参観されていますか。」においても概ね高水準であると言える。このことは、児童アンケートの結果からも読み取れた。なお、集計結果に対して総じて言えることは、竜王南小学校の日ごろの教育活動等が概ね良好であると感じるが反面、Aの比率がやや低いこと、CとDの少数意見を真摯に受け止めてもらいたい。

竜王南小学校の学校改善は、児童の教育にとって何が最善であるか、教職員一人ひとりが客観的な基準をもって判断し、評価と学校改善へとつなげてもらいたい。そこで、学校関係者評価委員会も公正な立場で判断し評価して、竜王南小学校の日ごろの教育活動を、次への改善へとやる気を高めていけるよう、本委員会が応援団的な役割を担うことができればと思う。

特 徴

教職員一人ひとりが、教育活動及びその他の学校運営に関する事項について、好意的に評価しており、教育活動計画に基づき実践が行われていることを、項目・の概ね良好の結果から伺える。また、保護者等への日ごろの教育活動の情報発信としての学校開放の定期的な実施や学校だより（学校長発行）・各学年だより等による広報への顕著な取組も伺える。

今後の課題として意識されたいこと

子ども達の生活指導面では、学校のきまりや約束ごと、先生からの注意等を素直に聞き入れることができる学校集団であることが伺える。しかし、学年が進むにつれてAからBへの比率が増している傾向がある。これからも学校のみならず、家庭や地域との連携で子ども達を見守っていききたい。

P T A活動への主体的な行動という面では、職員並びに保護者もまだまだ消極的であると感じる。

P T A活動の活性化に向け地域人として、学校への応援団的な協力等が行えたらと思う。

学習面では、児童アンケートから「授業はわかる」について、全校的には概ね肯定的な結果となっている。しかし、学年別では、低学年はBよりAの比率が高いが、特に4年以上ではBの比率の方が高いとともに、CとDに回答した児童がいることを真摯に受け止め、基礎・基本の定着及び個に応じた授業展開に一層取り組んで欲しい。

保護者のアンケートから「宿題の他にも家庭で自主学習をしていますか」のCとDの合計が約5割超ということが少し気になる場所である。このことは、教師の「宿題や家庭学習に対する指導を行っている」と保護者・児童アンケートの「宿題を忘れずにしている」と自主学習のはっきりした捉え方が曖昧なことから比率が低くなる理由があるのではないかと思う。また、「自分の子どもが勉強している」「学力がついている」ということについて評価することに少々抵抗がある保護者もいるのではないかと思う。これらの結果は保護者の自分の子どもに対する捉え方の特徴ではないかと思う。

特記事項

本年度は、登下校時以外でも多くの子ども達から挨拶を受けることがあり、気持ちが良かった。また、子ども達の遊んでいる様子を校内のみならず、地域の広場などで見かける機会がたくさんあった。

本委員会は、学校側から本年度の教育活動その他の学校運営等の全体について、自己評価書の提示と児童並びに保護者のアンケート結果から考察を含めた説明等を受け、客観性や妥当性を遵守して協議を行った。

については、学校側からも説明で触れられた学校の業務全体をとおして、職員一人ひとりの取組単位のP D C Aに取り組んでもらいたい。

そこで、本委員会においても日ごろから竜王南小学校の教育活動等に目を向け、多くの情報を集積し、学校へのよりよい応援団となり得るとともに、学校関係者評価委員会として、学校の姿を的確にとらえ、学校改善への方向性が示せるよう努力したい。

記載責任者（竜王南小学校 学校関係者評価委員会）P T A会長 大木弘一